

第1・2学年 音楽科学習指導案

日 時 7月11日(土) 1校時

対 象 1・2年3組 16名

授業者 山本 絵梨

1 題材名 「音をあわせておまつりだ!～生活の音がお祭りの音楽に～」(教育出版)

2 校内研究との関わり

本題材は、前題材で扱った「村まつり」の歌唱や「日本のたいこ」の鑑賞、今までのリズムに関する学習を基に、音楽づくりをする学習である。一人でつくった「マイリズム」を、対話や演奏によって友達のリズムとつなげる活動を通して、他者と関わる中で音を音楽にしていくための発想を広げることを目指す。本時では、生活の音を基につくったリズムから発想を得て、お祭りの音楽をつくる活動を行う。前題材において、お祭りの音楽の特徴的なリズムの連続性や、それによる高揚感を身体感覚としてとらえた。また、生活の音から発想を得たリズム遊びを行い、「マイリズム」を個人でつくる活動も行っている。これらを生かし、友達と互いのリズムをつなげたり重ねたりする中で、音がお祭りのような音楽になっていく面白さを感じ取り、リズムや速度などを工夫しながら、それぞれの思いを表現できるようにする。

そこで本時では、「対話や協働を通して学びを深める姿」として、以下の段階を位置付ける。

㊦子どもが選択する場面(友達との対話や演奏を通して、自分の考えやイメージを広げたり深めたりする場面。)

さらに、生活の音からつくったリズムを使うことや演奏に使う楽器の工夫(紙コップを使う)を通して、

①学習に関する多様性

を生かした学びにつなげたい。

3 本時の授業

(1) 目標

友達と互いのリズムをつなげたり重ねたりする活動を通して、音が変化する面白さを感じ取り、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもち、表現することができる。

(2) 展開 (2/3)

学習活動	・教師の働きかけ ◎評価 ☆支援 □校内研究との関わり
1 マイリズムを振り返る。	・前時でつくったリズムを想起し、本時の学習に生かせるようにする。
2 マイリズムを全員で一斉に叩く。	・何も考えずに一斉に音を出すとばらばらに聞こえるという経験をさせることで、前題材で鑑賞した音楽と比較し、お祭りの音楽にするにはどうすればよいのかを考えるきっかけをつくる。

3 めあての確認 ともだちとリズムをあわせたら、おまつりのおんがくができるかな。 4 ペアになり、リズムをつなげたり重ねたりしてお祭りの音楽をつくる。 ・友達と同時に叩いてみたらどうなるかな。 ・友達と交互に叩くと音楽になるかな。 ・自分が2回叩いた後に、友達が2回叩いてみたらどうかな。 ・最後は同時に「ドン」と叩いたら終わった感じがしそうな。 ・新しいリズムを付け足してみようかな。 5 中間発表をする。 ・繰り返し叩くと音楽に聞こえてくる。 ・最初は音が弱くて、最後は強く叩いているように聞こえた。そうすると楽しくてお祭りみたい。 ・交互に叩いているのは、呼びかけと答えみたいで面白い。 ・一緒に叩くと、音がたくさんあって楽しい感じがする。 ・細かいリズムが続くとにぎやかな感じがする。 6 つくった音楽を見直し、完成させる。 7 振り返りをする。	☆発達の段階や経験を考慮し、同学年でペアを組む。 □紙コップを机に打ち付けることで、太鼓をイメージしてリズム打ちができるようにする。 〔多様性①〕 □友達と対話したりリズムを叩いて試したりしながら、使うリズムを選んだり、つなげ方、重ね方を工夫したりして音を音楽にしていく。〔自律⑦〕 □音楽を形づくる要素が用いられているペアを取り上げ、どこが面白いのか、なぜ面白く感じるのかを聴いている児童に問い、発想を広げられるようにする。〔自律⑧〕 ☆発表したペアの模倣にならないよう、工夫の選択肢が広がるような価値付けをする。 ◎友達と互いのリズムをつなげたり重ねたりする活動を通して、音が変化する面白さを感じ取り、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもち、表現している。 【思考・判断・表現】演奏聴取、発言、ワークシート ・3観点（できた・わかったこと、友達の考えでよいと思ったこと、これから使いたいこと）による振り返りを行い、今後の学習につなげられるようにする。
--	--